

データからみる和歌山・田辺

統計学と地方創生

徳富智哉

和歌山県データ利活用推進センター

2022年9月7日

2016.8 総務省統計局及び独立行政法人統計センターの一部移転が決定

2018.4 「統計データ利活用センター」が開設

同時に「和歌山県データ利活用推進センター」を設置

→ 統計データ利活用センターの取り組みをサポート

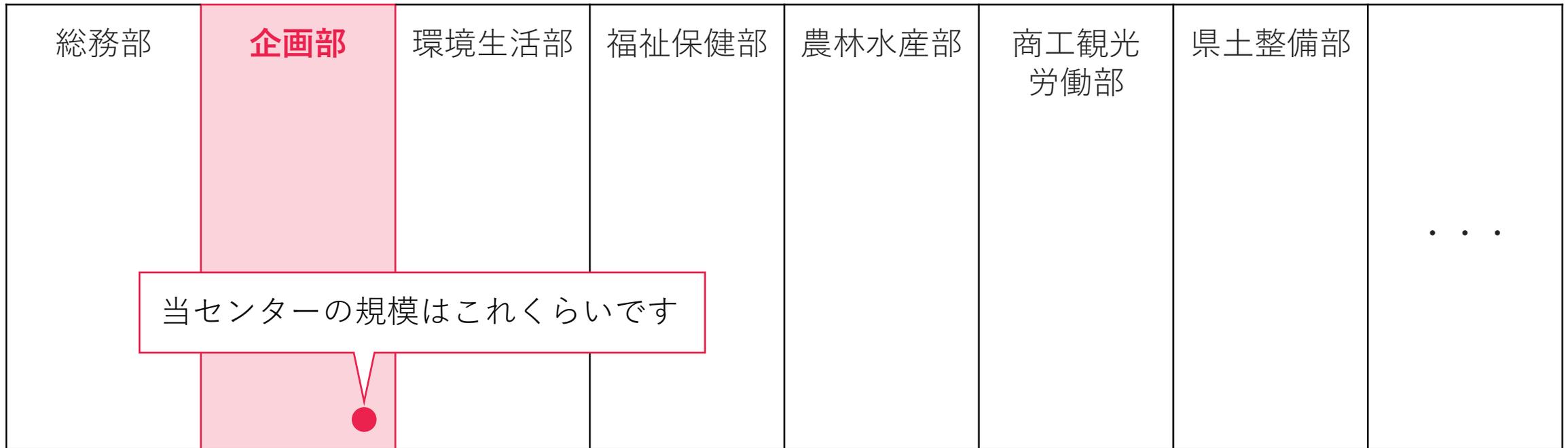
県内産学官におけるデータ利活用の推進

所在地：南海和歌山市駅ビル5F (和歌山市東蔵前丁)



出所：Impress Watch (2019)「和歌山市駅の複合施設『キーノ和歌山』。'20年4月オープン」
(<https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/1201289.html>)

- 当センターは和歌山県庁の中の一組織です
- 常勤職員6名、非常勤職員(顧問)1名の少人数体制です
 - 県庁の職員数は約3,500人



1. 地方創生とは何か、国の資料をもとに見ていきます
2. 統計データから、田辺市の過去・現在・将来の状況を確認します
3. 地方創生のために何ができるか考えます

- 言葉そのものの歴史は意外と浅い
 - 2014年、安倍首相(当時)の記者会見で初登場

改造内閣の最大の課題の一つが、元気で豊かな地方の創生であります。・・・(中略)・・・若者が将来に夢や希望を持つことができる魅力あふれる地方を創り上げてまいります。

今回、・・・(中略)・・・ありとあらゆる地方政策に関わる権限を集中して、新たに地方創生担当大臣を創設いたしました。政府全体にわたって、大胆な政策を立案・実行する地方創生の司令塔であります。

出所：首相官邸「平成26年9月3日 安倍内閣総理大臣記者会見」

(https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8833367/www.kantei.go.jp/jp/96_abe/statement/2014/0903kaiken.html)

- 2014年12月、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定

地方創生の目的

地方に、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方への新たな人の流れを生み出すこと、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出すこと

出所：地方創生「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、p. 2
(<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/20141227siryou5.pdf>)

地方創生に必要なもの

- 地方に仕事を作ること
- 地方に人を呼び込むこと
- 子どもを産み育てやすい環境を作ること



町の活性化

「総合戦略」における4つの基本目標

現在の状況

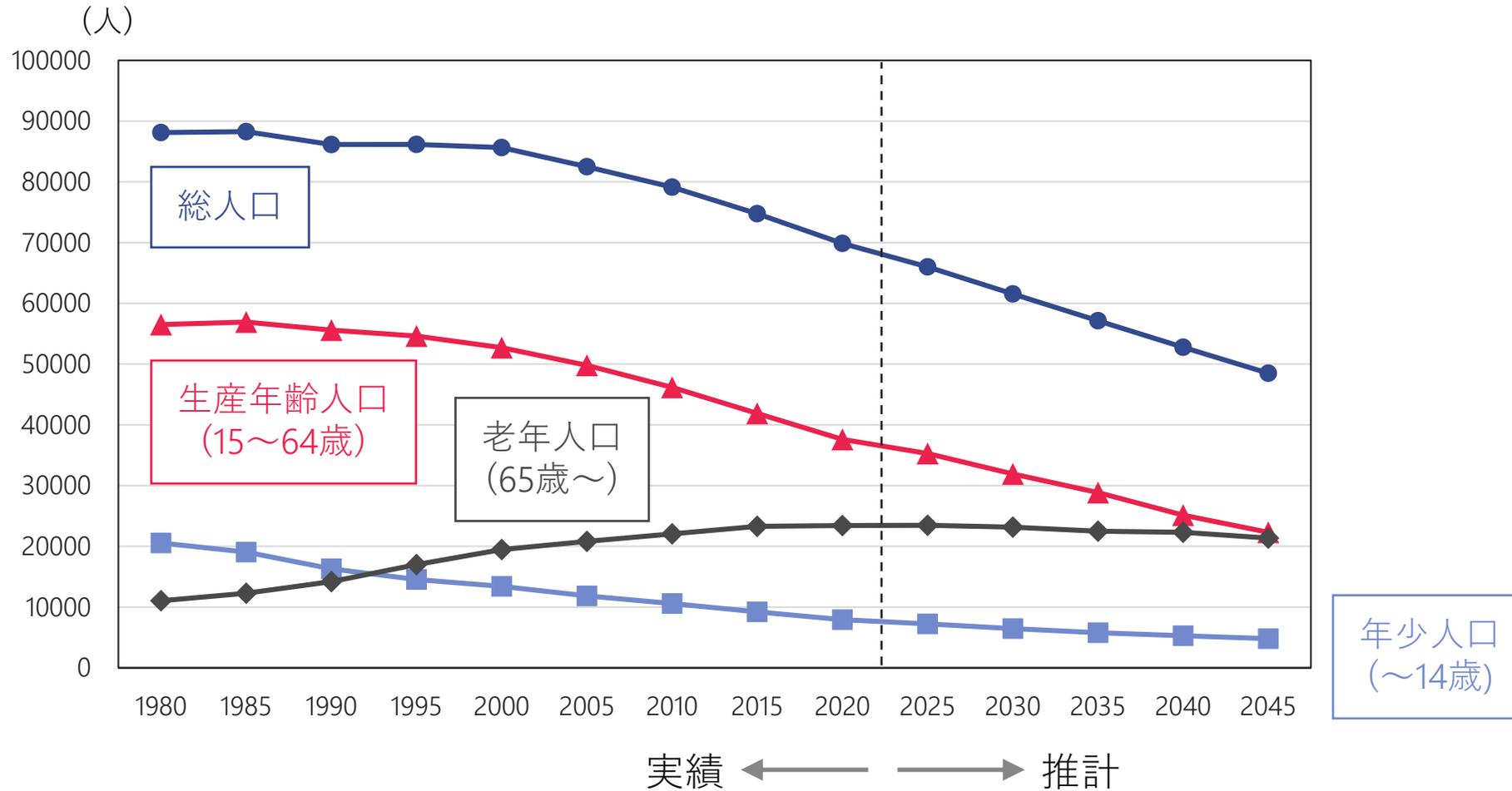
- | | | |
|--|---|-----------------|
| 1. 地方における安定した雇用を創出する | ↔ | 1. 雇用が安定していない |
| 2. 地方への新しいひとの流れをつくる | ↔ | 2. 地方に人が来ない |
| 3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | ↔ | 3. 結婚・出産・子育てが困難 |
| 4. 時代に合った地域をつくり、
安心な暮らしを守るとともに、
地域と地域を連携する | ↔ | 4. 地域が時代に合っていない |

- 地域経済分析システム | Regional Economy and Society Analyzing System
- 地域に関する様々なデータをグラフで表示
 - データのダウンロードも可能



出所：RESAS トップページ (<https://resas.go.jp/>)

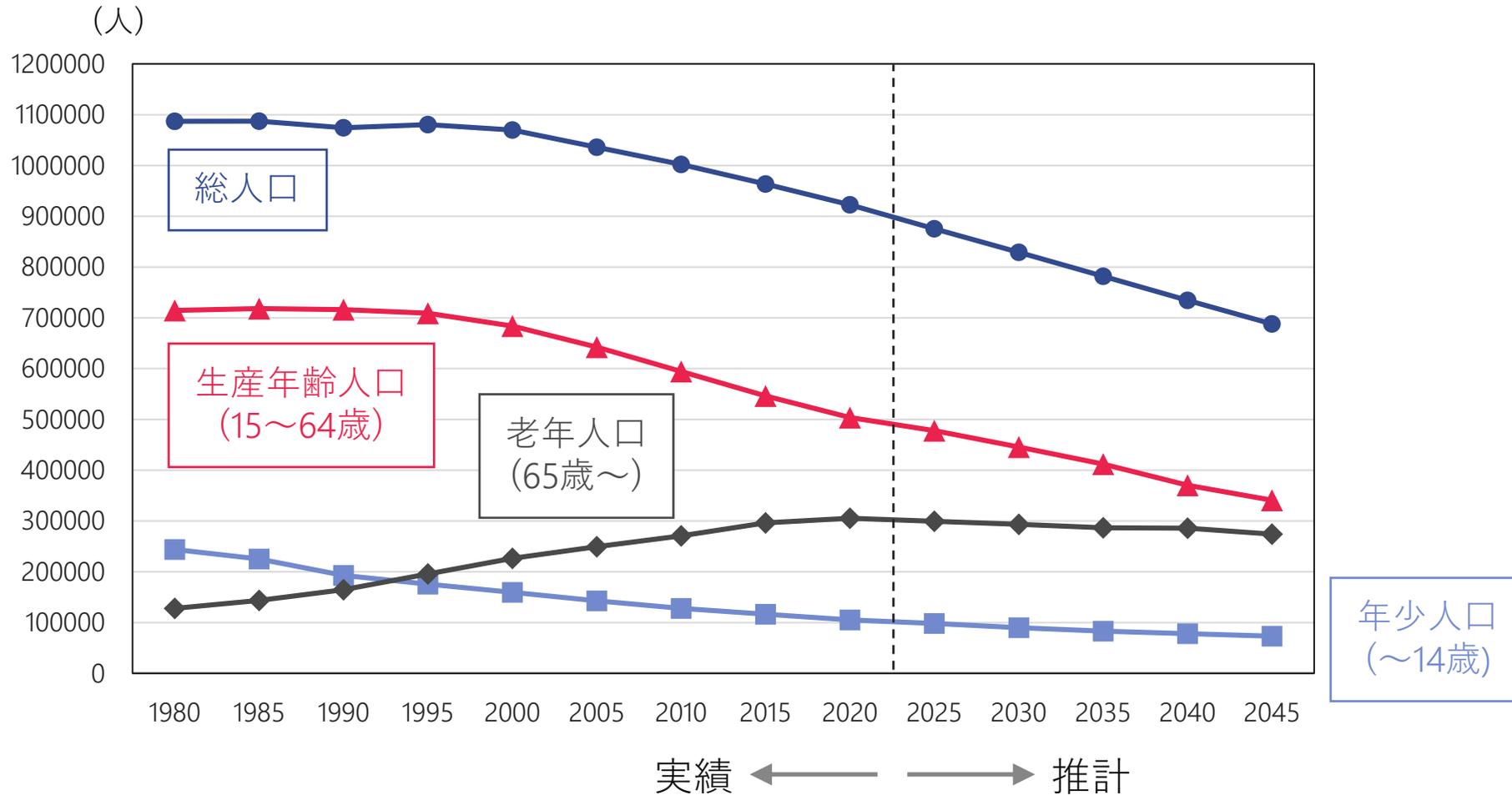
- 総人口・年少人口・生産年齢人口・老年人口
- 人口ピラミッド
- 自然増減数・社会増減数
- 合計特殊出生率
- 雇用者所得
- 従業者数
- •
•
他多数



出所：RESAS

データの出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

注：2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値

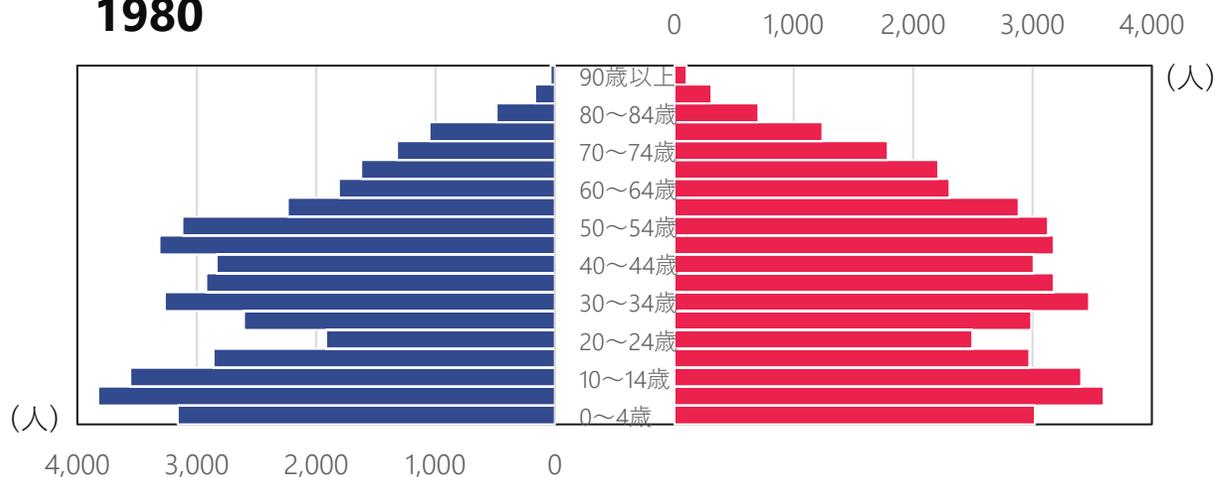


出所：RESAS

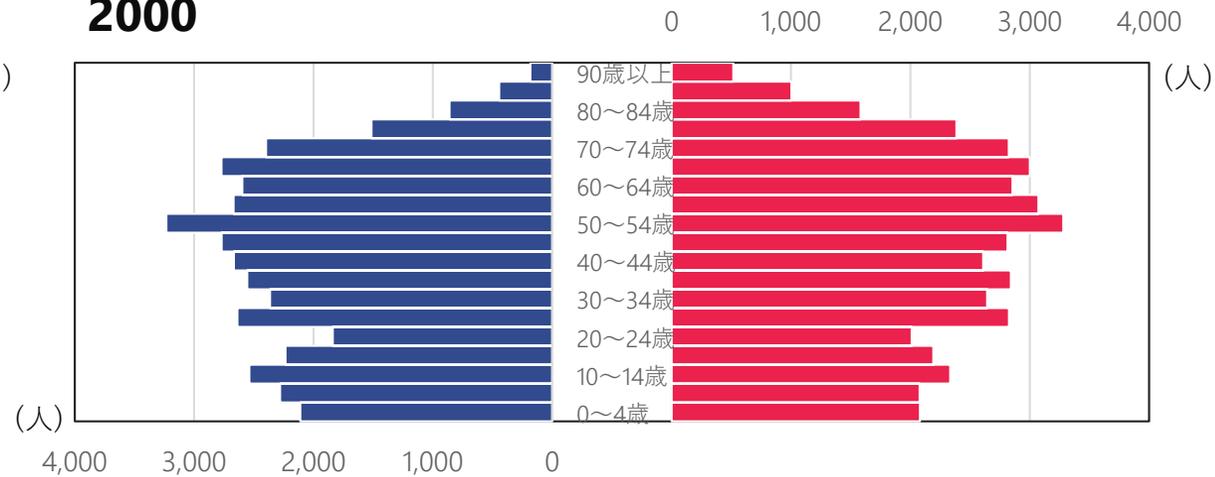
データの出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

注：2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値

1980



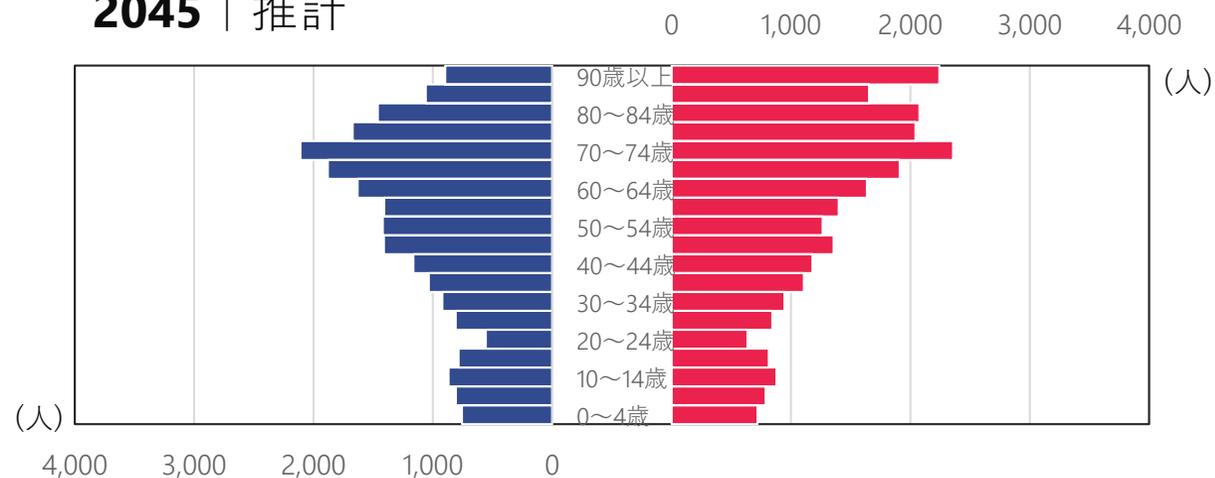
2000



2020



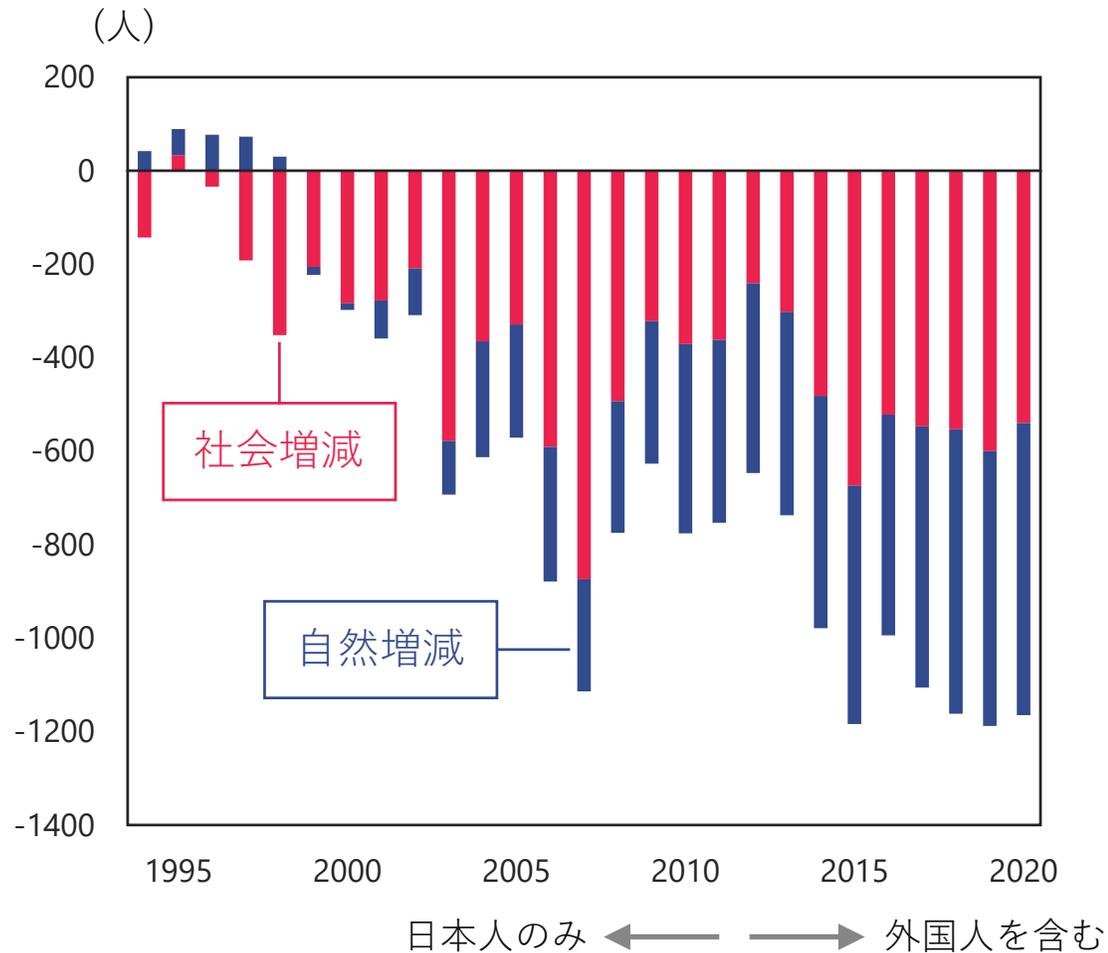
2045 | 推計



出所：RESAS

データの出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

注：2045年は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値



- 90年代半ばから社会増減が大きくマイナスに
 - 転入者よりも転出者が多い
- 自然増減も2000年頃からマイナスに
 - 出生数よりも死亡数が多い
 - 最近になるほどマイナス幅大きく(少子高齢化の影響?)

社会増減はなぜマイナス？

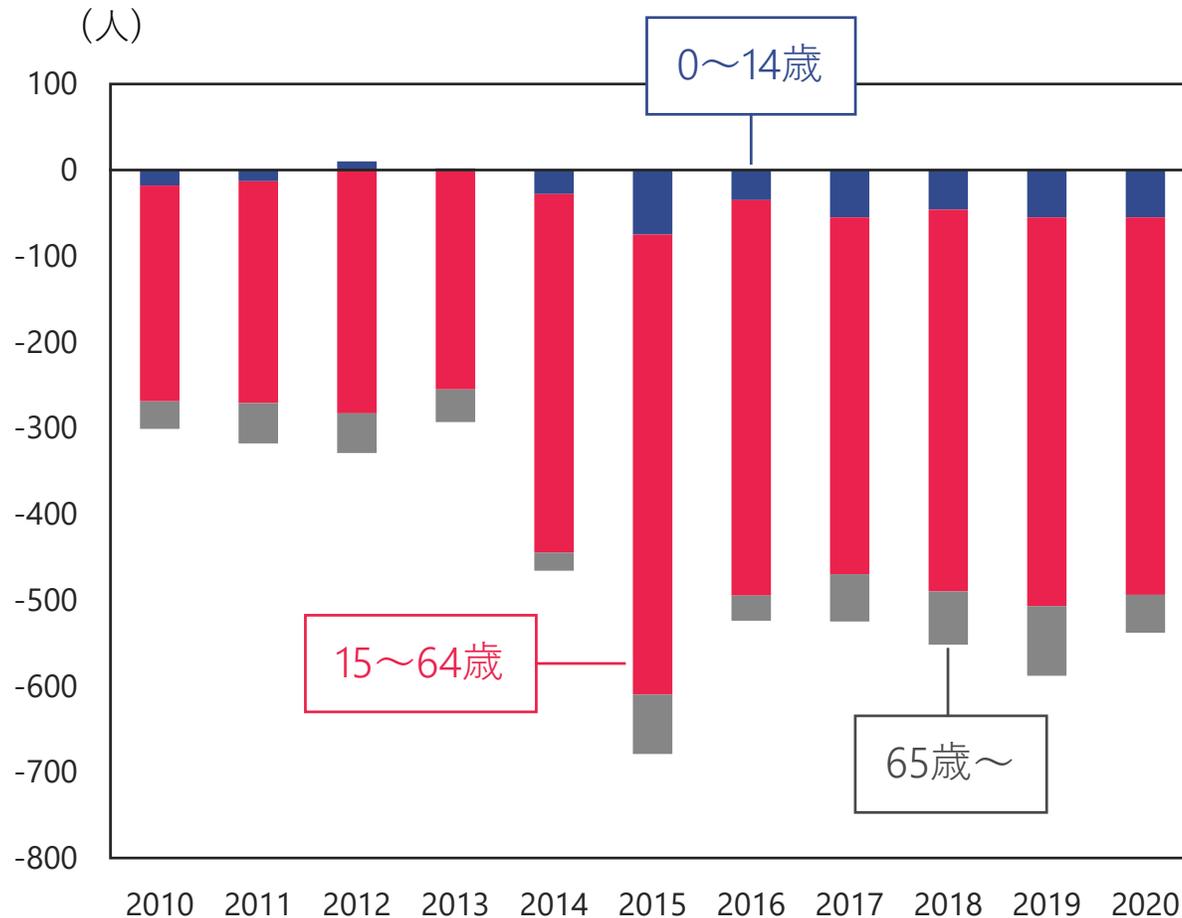
➤ どんな人が転出？

自然増減がマイナスなのは出生数が減少しているから？

出所：RESAS

データの出所：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

注：2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字



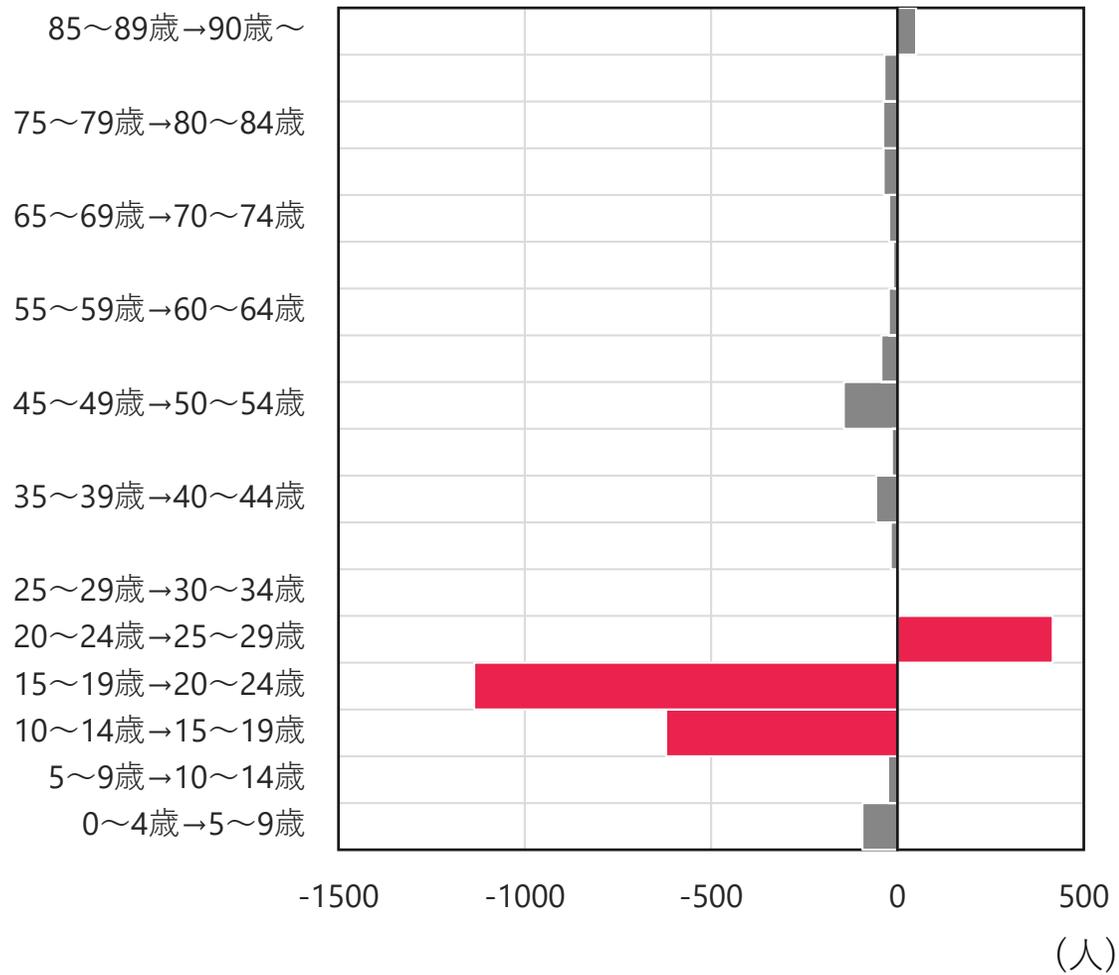
- 転出者の大半は15～64歳
- 大学進学や就職で転出している人が多そうだが、15～64歳だと幅が広すぎて分かりづらい

もっと細かい年代別の社会増減を確認したい

出所：RESAS

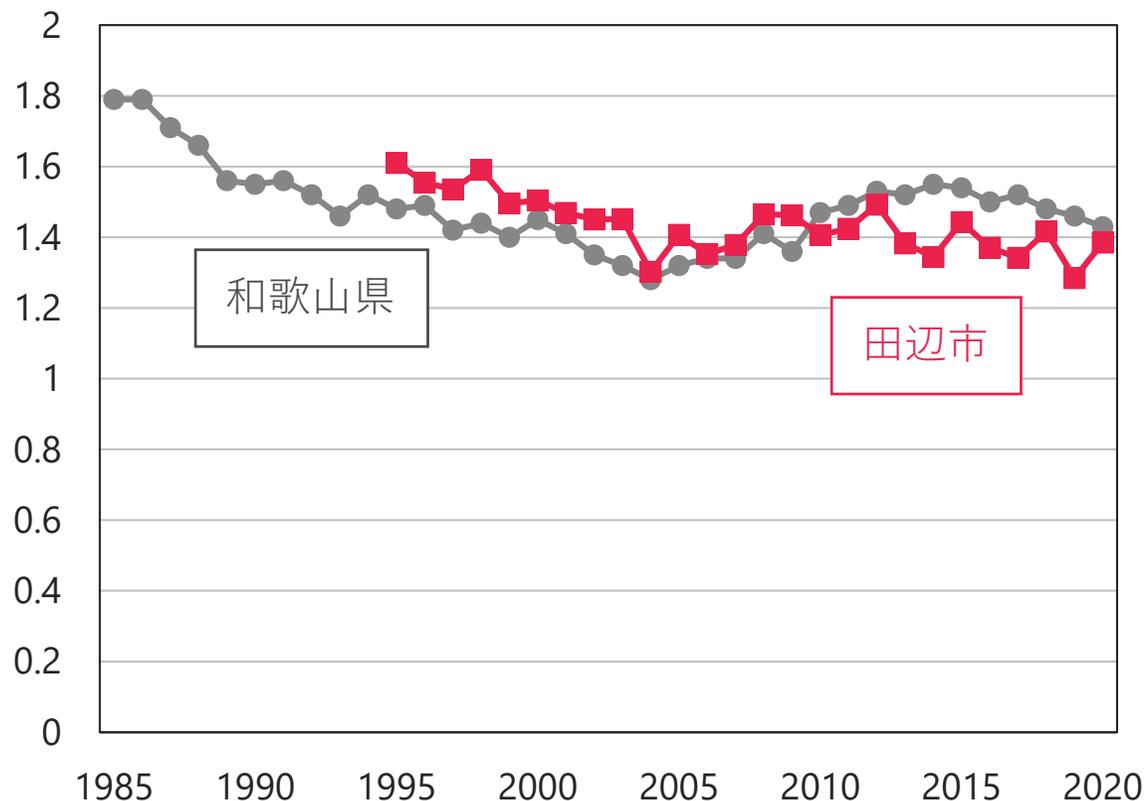
データの出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

注：2017年までは日本人のみ、2018年からは外国人を含む移動者数を表示している



- 10代前半～後半に人口が500人以上流出
 - 大学進学のため
- 10代後半～20代前半は1,000人以上流出
 - 大学進学 & 就職のため
- 20代前半～後半は転入者が500人弱
 - Uターン、他地域からの移住者
- 30代以降は転入と転出が均衡
 - 多くの人はこの段階で居住地が定まる
 - Uターンや他地域からの移住が減少
- 10代後半～20代前半の転出が多すぎるため、人口が減り続けている

出所：RESASのグラフをもとに講演者作成
 データの出所：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」



- 和歌山県の合計特殊出生率は直近では約1.4
- 田辺市の合計特殊出生率は、2009年までは県を上回る
 - その後は1.4前後で県を下回る
- 2009年までは、田辺市は県全体と比べて子供を産みやすかった

出所：RESAS (田辺市の合計特殊出生率は講演者作成)

データの出所(和歌山県)：厚生労働省「人口動態調査」

データの出所(田辺市)：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」(日本人女性人口)

地方創生に必要なもの | スライド6の復習

- 地方に仕事を作ること
- 地方に人を呼び込むこと
- 子どもを産み育てやすい環境を作ること

市民は地方創生を意識していないのが普通

- 田辺市で新事業を始めたり、
田辺市にUターン・移住したり、
田辺市で子育てしたりする人は、
利益や住みやすさ／子育てのしやすさを求めている

- 地方創生に取り組む主体は田辺市長と市役所の職員
 - 環境や制度を整えることで、新しい事業が興り、人が来て、子供が生まれ育てやすくなる
- 自治体は地方創生を含め、様々な課題を抱えて困っています
 - 観光客を増やすには？
 - 地域の商店街を盛り上げるには？
 - 災害に強い街を作るには？



政策のアイデアを競うコンテストが開催されています

地方創生★ 政策アイデア コンテスト 2022

主催 / 内閣府地方創生推進室
共催 / 経済産業省

登録はこちら

チラシはこちら

応募要項

データので 地域を元気に

あなたの分析お待ちしております

RESAS V-RESAS

出所：地方創生☆政策アイデアコンテスト2022 - トップページ
(<https://contest.resas-portal.go.jp/2022/>)

第6回 和歌山県 データ利活用 コンペティション

自由な視点で提案してください!

データを利活用したアイデアを募集!

募集期間
令和4年 4月1日金~10月21日金

募集テーマ 高校生・大学生の部共通
人口減少社会における人や企業をひきつける地域づくり

【具体例】
・アフターコロナ時代の新しい働き方やライフスタイルを楽しむまちづくり
・転職先を移住(同じ企業に勤めたまま他地方に移住すること)、テレワーク、ワーケーション等
・若者が働きたいまち、魅力ある仕事とは?
・地域と関わりやつながりを持つ人々の増加による地域活性化
・移住したくなるまちづくり

表彰・副賞

大賞 (各部門1点)	商品券 20万円
データ利活用賞 (各部門1点)	商品券 5万円
政策アイデア賞 (各部門1点)	商品券 5万円

お問い合わせ先
和歌山県 企画部 企画政策局 企画総務課 (和歌山県データ利活用推進センター)
電話: 073-488-2430
e-mail: e0201003@pref.wakayama.lg.jp

※応募方法等詳細は、ウェブページを参照してください。
URL: https://datarikatsuyou.pref.wakayama.jp/jinzai/competition/2022_6/

宣伝させてください

- 毎年、行政課題の解決アイデアを募集するイベントを開催しています
- 全国の高校・大学から応募があります
- データ分析スキルが身に付きます
- 他の高校生や大学生の発表が聞ける良い機会です
- 最大**20万円**分の商品券が出ます

和歌山県データ利活用コンペティション

出所：和歌山県データ利活用推進センター「和歌山県データ利活用コンペティション」
(<https://datarikatsuyou.pref.wakayama.jp/jinzai/competition/>)